

# 経営学部 経営学科

## 1. 理念・目的

経営学部は、建学の精神に基づいて「人間主義経営」の理念を掲げています。人間主義経営とは、生命尊厳の観点から、社会における人間の行動、組織活動をとおして様々な社会的課題に挑戦し、世界と人類の平和に貢献する組織経営です。経営学部は、これに立脚して確固たる目的観、知力・人間力をもつ創造的人間を育成するための規範的・実践的教育と研究を行うことを目的としています。

## 2. 教育目標

経営学部は以下の3つの教育目標を掲げています。

- (1) 人間主義の視点から人類社会に貢献する強い意志をもって社会的な問題を発見・解決する能力を有し、課題への挑戦を不断に行う人材を育成する。
- (2) 社会における問題発見・解決のために必要な専門知識と手法をもち、幅広く奥深い教養を身につけた知力・人間力を有する人材を育成する。
- (3) 英語をはじめとする語学に堪能で、優れたコミュニケーション能力を有し、グローバルに展開する国際社会を舞台に活躍できる人材を育成する。

## 3. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

経営学部では、大学のディプロマ・ポリシーに則り、また学部の教育目標に掲げた能力を有する人材を育成する学士課程教育を通じて以下の基準を満たす学生、及び所定の単位を修得し GPA 基準を満たした学生に学位を授与します。

### 知識基盤

- (1) 社会へ貢献する意志を有し、人間主義経営の理念と社会的責任を理解・習得している。
- (2) 現代経営に必要な基礎的知識を有し、経営の仕組みを理解して、その知識やスキルを習得している。

### 実践的能力

- (3) 社会的課題に関心をもち、自らもそれを発見して、他者に的確に伝える能力がある。
- (4) その課題の中にある人間や社会にとっての意味や価値を洞察し、問題解決をする能力がある。

### 国際性

- (5) ビジネス英語の基礎的知識・コミュニケーション能力を有し、ビジネスや社会で活用する能力がある。
- (6) 多様性を受容する力を持ち、世界市民としてグローバルな視野で他者と協働する能力がある。

### 創造性

- (7) 問題解決に必要な情報を自ら収集・分析し、論理的に探求しながら、価値を創造していく能力がある。
- (8) チームで主体的・能動的に活動し、ディスカッションなどを通じて様々な資源や知見を統合する能力を身につけている。

## 4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

創価大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、経営学部は学部のディプロマ・ポリシーに適う学生を育成するために、以下の方針でカリキュラムを編成します。ディプロマ・ポリシーで掲げたラーニング・アウトカムズに対し、直接評価手法（例：卒業研究発表会を開催し、学生の到達度を測定）と間接評価手法（例：演習におけるルーブリック調査）を組み合わせる点検・評価します。さらに不断の努力によって教育改善に取り組みます。

- (1) 初年次では多様な入学者が支障なく大学教育が受けられるよう初年次セミナーを設置し、この科目のなかで種々のアカデミック・スキルの学修やアクティブ・ラーニングを行い主体的な学修者としての基礎を築くようにいたします。

- (2) グローバル社会におけるコミュニケーション能力を身につけるために外国語科目を初年次で多く履修できるカリキュラムとします。このため、全学的な語学科目に加えて学部専門科目に実践的な英語科目を設置します。
- (3) 創造的で実践的な能力の知識基盤となる幅広い教養を身につけるために、共通科目の履修を積極的に受けられるカリキュラムとします。共通科目では大学科目、人文科学、自然科学など偏りのない学修ができるように構成し、またキャリア教育科目に重点をおいた配置とします。
- (4) 専門科目では、1年次の初年次セミナーから4年次の演習まですべての学年で演習を設置し、これら科目のなかで能動的学修を実践することにより、主体的・能動的な協働する能力を身につけるカリキュラムとします。
- (5) 基礎的専門科目においては、まず経営学、簿記、統計学、経済学などの知識基盤を習得します。また、学部の理念である人間主義経営については、講義に加えてグループ・ディスカッション、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングで学びます。
- (6) 高度な専門科目の履修では、学部の全科目を国際的なリーダーを養成する科目群と、専門性を養成する科目群に大別し順次的、体系的な科目の配置とします。これにより学生が自ら学修計画を立て、自身の目的に向かった主体的な学びができるように配慮し、ナンバリングとカリキュラムマップで提示します。専門科目に関わるすべての事項は学部教務委員会が取り扱います。
- (7) 世界市民養成のために、留学制度を始めとする学部独自の仕組みをつくり、諸外国教育機関等と連携し海外での学修の機会を設けます。海外での学修成果については所定の条件を満たせば専門科目として単位認定いたします。
- (8) 専門演習においては、単独の専門分野に関わる演習の他に、専門分野を横断したクラスターを構成して、能動的学修により理論的、実証的な思考方法や問題発見・解決能力を身につけられるようにします。

以上で述べた科目のいくつかは英語で行われ、日本人学修者に限らず多様な文化背景を持つ外国人留学生にも対応可能なカリキュラムとします。

本学部の専門科目で養成される能力は試験による判定の他にルーブリック評価、プレゼンテーション評価、レポート・論文評価など科目のアウトカムに適した評価方法により評価がされます。また、学部のディプロマ・ポリシーで掲げたラーニング・アウトカムズが達成されているかどうかに対しては、直接評価手法（例：卒業研究論文作成とその発表会を通し、学生の到達度を測定）と間接評価手法（例：演習におけるルーブリック調査）を組み合わせ点検・評価します。さらに不断の努力によって教育改善に取り組みます。

## 5. アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

経営学部は、創価大学のアドミッション・ポリシーに基づき、かつ本学部の教育目標で示した人材へと成長する資質を備えた学生を以下のように選抜します。

- (1) 経営学部の人間主義経営理念を理解し、広く社会で活躍しようとする目的観に立って本学部での学習を希望すること。PASCAL入試、公募推薦入試では、「面接試験」においてその意志を評価します。
- (2) 問題解決に必要な専門知識と手法を習得するために、高等学校までの教育において到達目標とされる基礎学力を有すること。大学入試センター試験利用入試、全学統一入試、一般入試、外国人入試では、そのような基礎学力、即ち、知識・技能、思考力・判断力等を評価します。
- (3) グローバルに展開する国際社会を舞台に活躍できる力を身につけるために必要な、基礎的な英語能力を有すること。公募推薦入試、大学入試センター試験利用入試、全学統一入試、一般入試において英語能力を重視します。大学入試センター試験利用入試、一般入試では英語の得点配分を他より高くします。また、PASCAL入試、公募推薦入試、全学統一入試では実用英語能力の一定レベル以上の資格・スコア等を優遇する措置を取ります。
- (4) 創造力や論理的思考力をもって問題発見・解決に主体的に取り組む資質と意欲を有すること。公募推薦入試においては英語以外に、数学、国語も選択できるようにし、数理能力や思考力・判断力・表現力を評価します。また、PASCAL入試、公募推薦入試では、「書類審査」や「グループ・ディスカッション」、「小論文」、「面接試験」によって思考力・判断力・表現力、主体性・協働性などを評価するとともに簿記、情報処理、数学にかかわる資格・スコア等を優遇する措置を取ります。

## 6. 卒業要件

経営学部経営学科の卒業要件は以下の通りです。

●以下の表の通りの単位を修得し、かつ**通算 GPA が2以上**であること。

科目区分	科目特性			卒業に必要な単位数	
共通科目 (54～57頁)	①基礎科目	初年次セミナー	必修科目	2単位	「自由選択」の単位として修得した単位は「自由選択」の単位として算入されます
		学術文章作法	選択必修科目	2単位	
		自然分野科目	選択必修科目	2単位	
	②大学科目		選択必修科目	4単位	
	④世界市民教育科目		選択必修科目	4単位	
	⑧キャリア系教育科目		選択必修科目	2単位	
外国語科目	第1外国語	※1 ※2	選択必修科目	10単位	
経営学科 専門科目 (110～112頁)	必修科目			8単位	
	選択必修科目 ※3	選択必修A群		18単位	
		選択必修B群		16単位	
	選択科目			36単位	
自由選択 ※4	『共通科目』『経営学科専門科目』『他学科専門科目』『特設課程科目(社会教育主事課程登録者のみ履修可)』から自由に選択して修得した単位			20単位以上	
合 計				124単位以上	

- ※1 第1外国語は、原則として「英語」とし、共通科目の「③言語科目(英語)」(54頁)又は学部学科英語科目(112頁)から10単位以上修得してください。
- ※2 第2外国語の卒業要件は設定されていませんが、履修することは可能です。第2外国語を修得した場合、その単位は「自由選択」の単位として算入されます。
- ※3 選択必修A群18単位、又はB群16単位を超えて修得した単位数は、選択科目36単位に含めることができます。
- ※4 自由選択とは『共通科目』、『経営学科専門科目』、『他学科専門科目』、『特設課程科目(社会教育主事課程登録者のみ履修可)』のどの科目でも自由に選択して単位を修得することができます。ただし、『共通科目』のうち卒業基準単位数が定められている科目群の科目と『経営学科専門科目』の単位は、各々の卒業に必要な単位数を超えて修得した場合に自由選択の単位となります。例えば、専門科目の選択科目を38単位修得した場合に、2単位が自由選択の単位として計算されます(自由選択を20単位修得済の場合は、卒業基準単位数を超えた単位として計算されます)。

## 7. 履修制限・成績優秀者・早期卒業に関する条件について

■経営学部の基準は以下の通りです。

履修上限 単位数 ※学期毎の 上限単位数	履修制限 除外科目	成績優秀者になるための 基準		成績優秀者の 履修制限緩和		早期卒業するための基準		
		学期毎の修得 下限単位数	直前セメス ターの GPA 数値	追 加 単位数	上級年 次履修	卒業判定時 通算 GPA 数値基準	在学4セメスター終了時点 の条件	
							通算 GPA 数値基準	最低修得 単位数
20単位	特設課程科目	16単位	3.50	4単位	可	3.70	3.70	84

早期卒業するためには、4セメスター終了時点で、基準のGPA数値と修得単位数を満たし、早期卒業対象者に選ばれる必要があります。そして、卒業判定時(6セメスター又は7セメスター終了時)に上記のGPA基準を満たし、かつ、卒業基準単位を修得する必要があります。経営学科では4年次配当の必修科目があるため、早期卒業をするためには、2年次秋学期と3年次春学期で成績優秀者となり、3年次春学期・秋学期に上級年次履修を行って4年次配当の必修科目を履修する必要がありますので注意してください。

なお、早期卒業対象者は、毎履修登録時に卒業希望セメスターをWebより登録しなければなりません。

## 8. 3つの学修コース制

世界とビジネスのニーズに応えられる人材を育成するため、次の3つの学修コースを設けています。

### (1) グローバル・ビジネス・リーダー (GBL) 学修コース

高い英語力と経営の専門能力を兼ね備えたビジネス・リーダーを養成するコースです。主な進路は、グローバル企業、国際機関、行政機関、国内企業、起業家、国内・海外の MBA などです。1年次に「経営学原理」を学修するとともに、1～2年次に英語科目を学習して TOEIC などの英語基礎力のレベルを段階的に上げていきます。さらにグローバル・プログラムを履修することにより、国際的に活躍できるリーダーを目指すことができます。

### (2) プロフェッショナル (PRO) 学修コース

会計・金融のスペシャリストを養成するコースです。主な進路は、公認会計士、税理士、国税専門官、銀行、証券会社などです。1年次に「簿記原理」と「株式会社簿記」、「工業簿記」を履修し、日商簿記検定2級取得を共通資格として目指します。各進路に適した専門科目、演習を選択し、進路の実現を目指せるようになっています。

### (3) 地方創生ビジネス (LOC) 学修コース

地方で活躍するために専門知識を持った人材を養成するコースです。主な進路は、事業継承、地方銀行・信用金庫、地方中小企業や地方自治体などです。1年次には「経営学原理」と「株式会社簿記」を履修し、日商簿記検定2、3級取得を共通資格として目指します。各進路に適した専門科目、演習を選択し、進路の実現を目指せるようになっています。

## 9. 履修モデル

学修コース選択によって、次のような標準的履修モデルに沿って履修してください。

### ■ 1年次

#### ① グローバル・ビジネス・リーダー (GBL) 学修コース

英語科目は、Study Skills for Business (SSB) I (春学期)、II (秋学期) を履修し、さらに Business English I (春学期)、II (秋学期) を履修してください。春学期は、必修科目の初年次セミナーと選択必修科目の経営学原理を履修してください。秋学期は、コース導入科目である Introduction to Global Business Leadership を履修してください。また、選択必修科目である簿記原理と統計学を履修します。その他、春秋学期を通じて、共通科目を履修します。

#### ② プロフェッショナル (PRO) 学修コース

英語科目は、Study Skills for Business (SSB) I (春学期)、II (秋学期) を履修し、さらに Business English I (春学期)、II (秋学期) を履修してください。春学期は、必修科目の初年次セミナー、選択必修科目の簿記原理と経営学原理を履修します。秋学期は、コース導入科目である株式会社簿記、工業簿記を履修してください。また、選択必修科目である統計学を履修します。その他、春秋学期を通じて、共通科目を履修します。

#### ③ 地方創生ビジネス (LOC) 学修コース

英語科目は Study Skills for Business (SSB) I (春学期)、II (秋学期) を履修し、さらに Business English I (春学期)、II (秋学期) を履修してください。春学期は必修科目の初年次セミナー、選択必修科目の簿記原理と経営学原理を履修します。秋学期は、コース導入科目である株式会社簿記を履修してください。また選択必修科目である統計学を履修します。その他、春秋学期を通じて、共通科目を履修します。

### ■ 2年次

#### ① グローバル・ビジネス・リーダー (GBL) 学修コース

英語科目は、春学期か秋学期のどちらかで Business English III を履修してください。春学期は選択必修科目である人間主義経営演習と経済学入門を履修します。また、2年次でコース推奨科目 (選択必修科目) を履修します。グローバル・プログラム (GP) 履修者は、グローバル・プログラム科目から優先して履修してく

ださい。GP 履修者以外は、選択科目や共通科目を履修してください。また、3・4年次での履修を推奨しているコース強化科目の Global Business Communication I、II を前倒しで2年次に履修することもできます。

### ② プロフェッショナル (PRO) 学修コース

英語科目は、春学期か秋学期のどちらかで Business English III を履修してください。春学期は選択必修科目である人間主義経営演習とコース強化科目である管理会計基礎、コース推奨科目の財務管理論を履修してください。秋学期は、選択必修科目である経済学入門、コース強化科目の会計学を履修します。春秋学期を通じて、残った選択必修科目や選択科目、共通科目を履修します。

### ③ 地方創生ビジネス (LOC) 学修コース

英語科目は、春学期か秋学期のどちらかで Business English III を履修してください。春学期は選択必修科目である人間主義経営演習とコース強化科目であるローカルビジネス論、コース推奨科目を履修してください。秋学期は、選択必修科目である経済学入門、コース強化科目の地方創生ワークショップを履修します。春秋学期を通じて、残った選択必修科目や選択科目、共通科目を履修します。

### ■卒業に必要な英語 10 単位の修得方法

卒業に必要な英語 10 単位は、学部学科英語科目を履修することによって満たすことができます。学部生共通として、TOEIC スコアに従ってクラスが割り当てられますので、それに従って履修してください。

### ■経営学部履修モデル (図)

	グローバル・ビジネス・リーダー (GBL) 学修コース	プロフェッショナル (PRO) 学修コース	地方創生ビジネス (LOC) 学修コース
1年次 春学期	初年次セミナー		
	経営学原理		
	Study Skills for Business (SSB) I		
	Business English I		
	簿記原理	簿記原理	
1年次 秋学期	統計学		
	Study Skills for Business (SSB) II		
	Business English II		
	Introduction to Global Business Leadership	株式会社簿記	株式会社簿記
	簿記原理	工業簿記	
2年次	経済学入門		
	人間主義経営演習		
	選択必修科目(経営管理論、人的資源管理論、財務管理論、ビジネス・データ分析)等		
	Business English III		
	Global Business Communication I・II	会計学	ローカルビジネス論
	Stakeholder Dialogue	管理会計基礎	地方創生ビジネス・ワークショップ
	International Context in Business		企業ソーシャルキャピタルと法等
	選択科目(人間主義経営とCSR、マーケティング、会社法、CSR会計、ビジネス&ロー・ワークショップⅡ・Ⅲ)等		
	GP科目(GP Foundations, GP Review, Project Management I)		
	3年次 以降	演習Ⅰ～Ⅳ	
クラスター: マーケティング、ファイナンス、情報とビジネス、環境、グローバル、アカウンティング、 ストラテジー、ビジネスヒストリー			
グローバル・プログラム科目群			

## 10. 演習（ゼミ）の履修について

### (1) 演習についての注意事項

専門科目の演習（ゼミ）は必修科目です。以下のことに注意してください。

- ① 演習は定員制で、申し込みと選考があり、そこで所属が決定されます。
- ② 演習ガイダンスが事前に行われますので、必ず参加してください。
- ③ 演習は、原則として、同じ教員のもとで行います。

### (2) 演習ガイダンス及び申し込み時期

2年次秋学期にガイダンス及び申し込みがあります。

### (3) 演習科目名・科目特性・履修時期については以下の通りです。

経営学部：演習Ⅰ～Ⅳ（専門必修科目）

演習Ⅰ（3年次春学期）・Ⅱ（3年次秋学期）・Ⅲ（4年次春学期）・Ⅳ（4年次秋学期）

## 11. 経営学部の英語教育（グローバル・プログラム, GP）

英語専門科目がレベルごとに段階的に設置されています。3つのコース共にグローバル・プログラム科目を取ることができます。

その中核科目である「Global Program Mission」は、春季又は夏季休業期間を利用して海外の名門大学で経営を英語で学ぶ「グローバル・ビジネス・リーダーシップ研修」と海外の国際機関や経営大学院、外国企業を訪問し、最前線の専門家から講義など、地球市民としての視野を体感的に学習できる「地球市民としての企業研修」に分かれています。授業として「Global Program Foundations」と「Global Program Review」を合わせて履修してください。

グローバル・ビジネス・リーダー学修コースの方は、1年次にTOEICスコア最低450点を確保し、2年次以降に「Business English III」や「Global Business Communication I・II」などの英語専門科目を継続的に履修し、TOEIC 730点のクリアを目指します。

プロフェッショナル学修コース、地方創生マネジメント学修コースの方も、Global Program Mission や、英語でプロジェクトの運営能力を磨く「Project Management」など、世界に通用する専門家としてGP科目を履修することをお勧めします。

### ■グローバル・プログラム修了証及びジュニアグローバルリーダー認定書

\*下記の条件を満たすものは、申請に基づき各修了証／認定証を授与します。

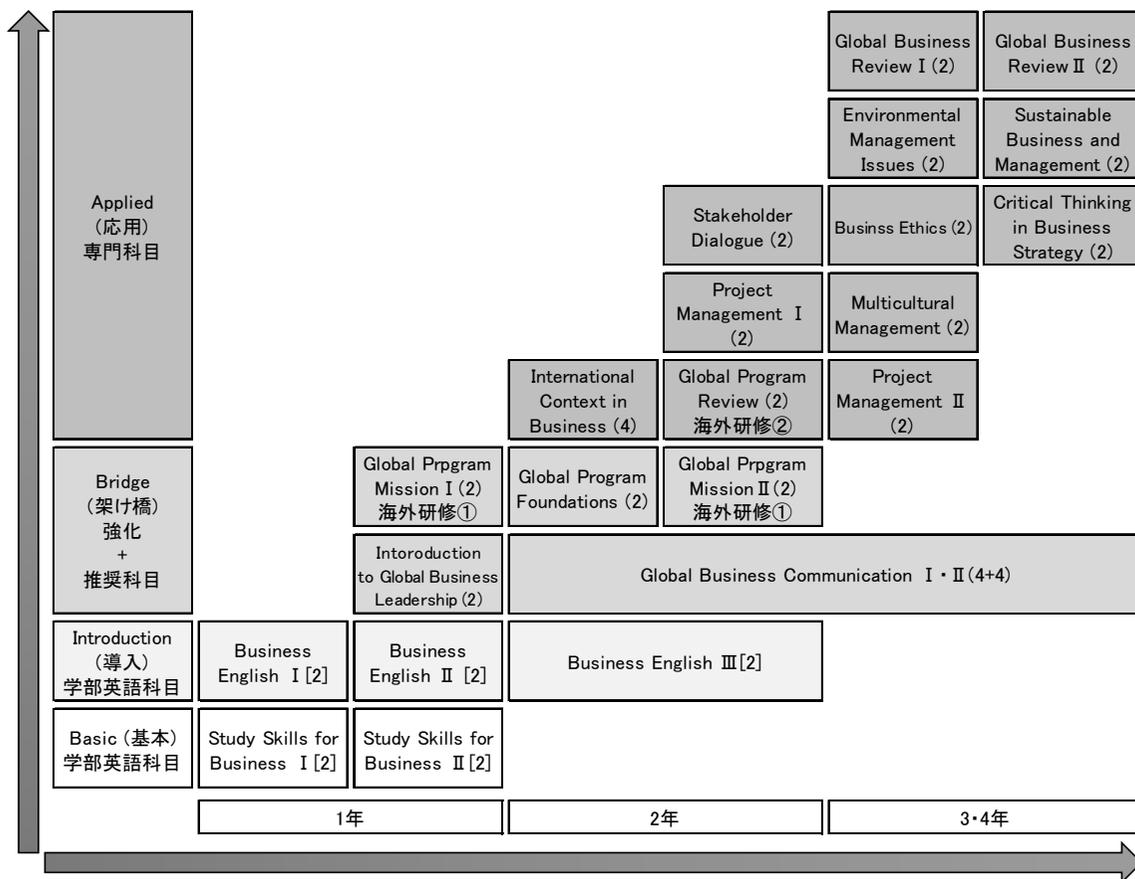
認証時期	最終学期終了時	3年次終了時以降	3年次終了時以降
	グローバル・プログラム修了証	ジュニアグローバルリーダー認定証	グローバルリーダー認定証
TOEIC	—	TOEIC730点以上 (過去1年以内)	TOEIC 800点以上 (過去1年以内)
GPA/成績	—	認定時までのGPA2.8以上	認定時までのGPA3.2以上
GP科目	GP科目40単位以上修了	GP科目20単位以上修了	GP科目20単位以上修了
修了テスト	—	—	修了テスト合格者

注1 グローバルリーダー認定証又はジュニアグローバルリーダー認定証を授与したものが、グローバル・プログラム修了証を重複して申請しても構いません。

注2 グローバルリーダー認定証又はジュニアグローバルリーダー認定証は、就職活動におけるPRで使用することを想定し、3年次終了時に認定することを基本としますが、就職活動で使用しない場合や、留学により卒業が遅れる等の場合は、3年次終了時以降に認定することも可能です。

注3 TOEIC以外の英語試験スコアの提出も可能です。審議により各認定基準と同等と判断された場合には、認定証を授与します。

( ) 専門科目単位数 [ ] 英語科目単位数  
 ※春学期・秋学期は都合により変わる場合があります。



## 1.2. 専門科目の認定について

経営学部では、下記の通り、経営学部の専門科目の単位を認定します。単位認定を希望する学生は、所定の申請書（Web 上にて発行）と合格証書原本（教務課で写しを取った後に本人へ返却）を教務課に提出してください。その後学部教授会で審議され、認定されます。

### (1) 簿記検定

- ① 入学前に日本商工会議所主催の「簿記検定 2 級」を取得している場合、あるいは全国経理教育協会主催の「簿記能力検定 1 級会計」と「簿記能力検定 1 級工業簿記」の両方を取得した場合、経営学部の専門科目「簿記原理」（4 単位）を認定します。
- ② 入学後、日本商工会議所主催の「簿記検定 2 級」を取得した場合、経営学部の専門科目「株式会社簿記」（2 単位）・「工業簿記」（2 単位）の 2 科目 4 単位を認定します（簿記原理としての単位認定はできませんので、1 年生の間に簿記原理を修得してください）。
- ③ 日本商工会議所主催の「簿記検定 1 級」、若しくは全国経理教育協会主催の「簿記能力検定上級」を取得した場合、経営学部の専門科目「簿記原理」（4 単位）、「株式会社簿記」（2 単位）・「工業簿記」（2 単位）の 2 科目 4 単位、「会計学」（4 単位）のいずれか 4 単位を認定します。

※簿記検定の資格で認められる単位認定は 4 単位を上限とします。

### (2) 「海外インターンシップ」「サービスマーケティング」について

経営学部では、海外における企業や団体組織での就業体験を行う「海外インターンシップ」科目、また産学公連携型ワークショップや授業を通して修得した知識を活用して地域社会での社会貢献活動を行う「サービスマーケティング」科目を開設しています。